

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 南ユニット)

事業所番号	0691700066		
法人名	社会福祉法人たいよう福祉会		
事業所名	グループホームソーレ東根		
所在地	東根市温泉町2丁目5番15号		
自己評価作成日	令和 4年 10月 20日	開設年月日	平成 27年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの生活の中で、調理やホーム内の清掃など生活中に、一人一人が役割を持ち自分らしく安心して生活できるようにスタッフと一緒に協力して取り組んでいる。また、入居者全員がトイレで排泄できるよう援助支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 1月 12日	評価結果決定日	令和 5年 2月 1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染症の流行がなかなか収まらず、先が見えないなか、今年度のグループホームの理念を職員全員で考えて定め、利用者の毎日の暮らしを支えています。今出来ている事を長く維持出来るよう、元気な頃に培った家事活動を活かし、みそ作り・漬物作り、また畑仕事で収穫した産物で梅ジュース・紫蘇ジュース等を作り、食材に活かし、一緒に生活する利用者の励みにもなっています。職員は畑で生き生きと精を出している姿を見て、外との繋がりが無くなっている今、「利用者の笑顔が見たい」をキーワードとして個別ケアに力を注いでいます。カフェを再開し介護教室など、地域の福祉拠点として情報発信し、笑顔溢れる安心の場を提供したいと考えている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染症の状況を見て、朝礼時に唱和している。感染が拡大しているときは、予防の観点から唱和は行わず事務室や休憩室の見えるところに張り出し掲示している。	法人理念を基に、年度始めに職員全員でグループホーム理念を定め、事務室等に掲示している。利用者に対しての声掛けなど、一人ひとりに合わせたケアを実践し、疑問に思った事をうやむやにしないで申し送り、継続した個別ケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、外部との交流機会が減ってきている。地域委員会を通し、周辺のごみ拾いや草むしり公園掃除などを行っている。	コロナ禍により地域交流の拠点にしていたカフェの開催や介護教室などが出来ないが、周辺のゴミ拾いや公園掃除は状況を見ながら行っている。グループホームが地域の人々の相談を受け、町の保健室のような役割が出来るようカフェの再開に努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、地域委員会でたいよう教室を開催予定。(第一回は新型コロナウイルス感染が自法人で確認され中止) 地域の区長と相談しながら、教室の題材を検討。開催に向け打ち合わせ中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催。会議の内容・結果はスタッフにも周知しサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍によりメールや郵送等で配布して文書会議開催になっている。利用状況活動内容やヒヤリハット等の現況報告、身体拘束適正化委員会の報告等を記している。今の感染症の状況が改善し、会議が開催出来るようになる事を望んでいる。	運営推進会議メンバーからの意見や要望をもらい、記することで双方向的な会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や対応に困ったときは東根市役所福祉課へ相談し助言を得ている。運営推進会議等でも助言をもらっている。	市福祉課とはメールや電話で情報をもらい協力関係を築いている。担当者とは利用者の困っている事などを相談出来る場でもあり、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	現在コロナ感染予防対策として、玄関は施錠中。定期的に会議や研修時に話し合いを持ち身体拘束をしないケアに向けて勉強会を開き職員間で情報を共有し取り組んでいる。	身体拘束適正化の指針を職員全員で学び共有し、検討会で事例研修を行い理解を深めている。一人ひとりの行動背景を把握し、行動を見据え抑制などせずその人に合わせた対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・会議や研修を通して学ぶ機会を得ている。また、職員間で見過ごしがないよう注意を払っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通し制度や必要性について学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を使い、また契約時にきちんと説明を行っている。都度疑問点や不安な点がないかをを確認し理解・納得が得られるようわかりやすい言葉で説明を行うようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に理事長ボックスを設置に誰もが自由に意見を言えるようにしている。また、家族からの意見・要望はすぐに理事長と話をし改善できるように取り組んでいる。	利用者家族が気軽に意見を言えるように、居室担当者が生活の様子を伝え要望などを聞いている。些細な事でも連絡し、活動中の姿を写真に撮り、通信に載せて送り信頼関係を深めている。寄せられた意見要望は朝礼時や何でもノートに書き共有し、検討してケアに活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム玄関に理事長ボックスを設置に誰もが自由に意見を言えるようにしている。また事業所ではフロアカンファレンスなどで出た意見をリーダー会議に理事長も出席するためその際意見を提案できるようになっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一度自己評価を行い、その評価表を用いて面談を行っている。スタッフの悩みや考えを把握し好きアップを図るための助言を行い、目標を設定し向上心を持てるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプターによる指導や研修にて一人一人の力量に合わせ技術やスキルアップ向上に向けサポートしている。	職員を育てる取り組みとして、年齢の近い人にプリセプターとして付いて指導をしている。人に教える責任は重いですが、教える事で自らも振り返りが出来、共に育ち合い力量アップにも繋がっている。外部研修はオンラインで受講し復命書により伝達研修をしている。内部では感染症に関して共通の課題として取り組み成果をあげている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通じ他事業所と交流を図っている。	グループホーム連絡協議会の活動はオンラインで行われている。交流の出来ている時は、事業所以外の方の話が聞けて良かったなどの声やケアに取り入れる例もあり、早く落ち着き交流が出来る事を望んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話の中から不安なこと、困りごとなどに耳を傾けられる限り受け入れ寄り添うことで信頼関係を築いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様より入居前に十分な聞き取りを行い希望や要望の確認を行っている。遠方の家族へは利用者状況表や通信を通じ状況を伝えリモート面会や電話での会話の機会を持ってもらっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人や家族に意見や要望を聞きとり、出来る限り要望に近い形で介護サービスを提供できよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体状況に合わせてできる作業を提案し、作業工程を入居者様から教えていただくような会話づくりをしコミュニケーションを築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の身体状況に合わせてできる作業を提案し、作業工程を入居者様から教えていただくような会話づくりをしコミュニケーションを築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族の希望があればかかりつけ医を継続している。コロナ感染症もあり面会の制限の中でもなじみの方との関係が途切れないよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席を考慮しお互い関わりあえるように軽作業や行事を進め良好な関係を築けるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をする際、新しい受け入れ先や本人に合ったサービスの紹介。必要な上表を伝え今後の生活をフォローしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の場面で何気ない会話の中から本人の意向をくみ取り本人の思いに添えるよう努めている。	利用者と話をする場所や雰囲気づくりを大事にし思いを聞いている。関わりの中でも排他はこころの動きと関係すると感じているため、特に誘導案内には気を配っている。訴えの困難な方は、そばにいと手を触れてくることもあり、イエス・ノーで答えられる質問をして表情を見ている。利用者が職員を頼り、安心を訴えてくれる事に満足を感じ、職員の励みにもなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、生活環境の聞き取りを行い、入居後も同じように生活できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録などから一日の過ごし方や心身の状態を把握し、現状に合わせた対応を行うように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い意見やアイデアを出せるように情報を共有している。	介護計画作成にあたっては、利用者の不安を取り除く事を一番大事な事と考えている。関わりの多い居室担当者が行動を汲み取り、他の職員からも情報を得て、作成者が今出ている事を長く続けられるように、また一日一日を笑顔で終われるように思いを込めて計画書を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートで情報の共有を行っておりケアの方法の見直しや統一を図っている。また、朝礼時にその日の統括リーダーが状況を確認し、当日の重点して行うケアについてスタッフに周知している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣のドラッグストアやコンビニ、タクシー会社などの検索ネットワーク等の協力を依頼し、入居者が一人で外出し迷ってしまったとき等必要時の協力をお願いしている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望があればかかりつけ医を変更せず対応している。かかりつけ医とは連絡を取り、適切な医療を受けることが出来るよう支援している。</p>	<p>在宅診療所の医師や歯科医から定期的な往診を受けており、他科の受診については職員が同行し、結果は業務日誌に記載し職員で共有するほか、家族等にも知らせている。看護師が日常的に利用者の健康状態を把握しており、変化等があればいつでも相談や助言を受けられる体制をとり安心に繋げている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師が勤務しているため、普段から変化や気づきがあれば看護師に相談し、入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際はホームから必要な情報を提供している。(介護・看護サマリー)また、病院からの退院時は退院前カンファレンスに参加し協力病院やかかりつけ医と関係づくりをし入院前の生活に戻れるように支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取りのについての意向を確認している。また、重度化した場合の指針を重要事項説明書の中に入れ、入居契約時に説明している。意向については、提携医にも伝えている。</p>	<p>入居時に「重度化対応に関する指針」を説明し理解を得て、意向の確認も行っている。重度化が進み身体の変化があれば、家族等・医師と今後の方針を相談し、全職員が情報を共有して日々話し合いを行い連携し看取りの要望にも対応している。職員は看取りや緊急時の対応の研修を定期的実施しているほか、緊急時は施設長や診療所の看護師といつでも連絡・相談が出来る体制ができています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを用意しており、会議やカンファレンス時などに勉強会を行っている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域合同で防災訓練を実施。9月1日の防災の日には防災炊き出し訓練を実施している。	定期的に災害避難訓練を実施するほか、法人と合同の総合防災訓練、地域合同の防災訓練を利用者・職員が参加して実施している。地域と防災協定を結び避難の際は地元消防団員から応援をもらい、また事業所が地域の避難者受け入れ施設となっており、互いの協力体制が築かれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の声掛けは、周囲に聞こえないよう耳元でさりげなく声をかけ、入居者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう声掛け、対応を心掛けている。	入居時に生活歴や普段の様子・思いを本人や家族等から聞き把握している。入浴時や排泄時等の声掛け・見守り・介助等は、人格を尊重しプライバシーにも配慮して一人ひとりに合わせている。日々の気づきは普段の様子や職員との会話等をこまめに記録し、職員間で共有している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より本人の希望を聞き取り、選択し自己決定できるように働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	役割等声掛けを行い入居者のペースで過ごしてもらっている。希望があればそちらを優先させる。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ある程度は入居者に任せている。居室退室時は、居室内の洗面台前で声をかけ整えるようにしている。ヘアカットの支援も行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きなこと、得意なことを活かし職員とともに食事を作ったり片づけをしている。	食材は配食業者を利用し、ご飯・味噌汁・おかずは職員と利用者で手作りし、盛り付けやあと片付け等も分担し一緒に行っている。畑で野菜を一緒に育て、食卓ののせ食し楽しみとなっている。新聞チラシ等を見て時節を感じて、食べたい料理や季節の行事食・郷土食などの希望をメニューに取り入れ喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事形態や量を提供している。季節により飲み物を変えたり、本人の希望する水分を提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。法人の歯科衛生士の口腔ケア指導を受けたり、口腔にトラブルがあれば、歯科往診の協力を得ている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄習慣を把握し、トイレの呼びかけや本人から希望があれば対応している。失禁がある方でもトイレでの排泄を進め誘導している。	排泄のパターン等は一人ひとり捉え、不安や不穏にならないよう誘導や声掛けを行い、毎日1回はトイレに行き座ってもらうなど、トイレでの排泄を重要ととらえている。毎日午前・午後の体操の他、毎朝牛乳や定期的に果物・ジュース等を提供し便秘予防に取り組んでいる。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳飲料を提供。また、水曜日はヨーグルト、日曜日は果物を提供している。下剤だけに頼らず、こまめな水分補給や運動で便秘予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を曜日毎に固定しているが、体調や本人の希望に応じ、入浴日や時間を変更し、入浴時間等は本人に相談し希望に添うようにしている。	基本的な入浴日は定めているが、本人が希望の曜日・時間帯で入浴できるよう支援している。脱衣所は早めに暖房を入れ、ヒートショック防止や滑り止めマット等利用し安全に、ひのき風呂でゆったりと入浴できるよう配慮している。一人ひとり湯を取り換え換気を都度行い清潔を保っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活パターンを把握し、状態に応じて休息できるようにしている。安心して休めるよう個人に合わせて照明の明るさや空調の設定を調整している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに記録に、服薬情報表を挟み、スタッフが病状や服薬内容を把握できるようにしている。服薬の変更があったときは、ケース記録や申し送りノート、業務日誌に記入し、1週間申し送りをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を知り、役割としてできる事はないか職員間で情報を共有し気分転換できるよう支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症もあり、外出機会は減っているが、希望があれば家族と相談し外出している。	コロナ禍で外出の機会は減ったが、日常的な敷地内等の散歩は変わりなく行っている。天気が良いときは、積極的に外気浴を兼ねて散歩に出かけ、畑仕事等にも勤しんでいる。受診の帰りを利用してドライブをしたり、冬期間は日光浴等を行い気分転換やストレス軽減に繋げている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力に応じて、ある程度の金額は入居者が管理おり、日用品などの購入を行っている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に行事実施時に撮った、写真などを掲示している。季節に合った掲示物を入居者を一緒に作り季節感を感じられるように工夫している。	利用者が集うフロアには行事での写真や手作りの作品等を掲示、正月飾りやだんご木などの飾りで季節感を出し楽しんでいる。毎日利用者と職員が清掃を行い、ホールには物を置かないよう整理整頓し、温・湿度管理はもとより換気をこまめに行い感染症対策を実施している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアだけでなく、カフェが併設されているため気の合う入居者同士で過ごすことができる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込み、また家族写真などを飾り本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド・クローゼット・洗面台・エアコンが居室には備えてあり、その他馴染みの物を持ち込み、利用者に合わせ安全に配慮した配置をして居心地よく過ごしている。眠りスキャンを利用している方は夜間の睡眠状況がわかり、日中に居眠り等をする原因の参考とし、安全な生活が送れるよう支援している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の手段や歩行のレベルに合わせ食席を決めたり、安心して移動ができるように環境整備をしている。電気のスイッチなど混乱する方へは同じ色のビニールテープで表示したり、張り紙で場所がわかるようにしている。		